

作文の自己修正を促すための教師フィードバックとピア・レスポンス —自律的な書き手となることを目指した中級日本語作文授業の実践報告—

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

中野 陽（関西学院大学日本語教育センター）

1. 実践の背景

ピア・レスポンス（以下「PR」）の効果を実証した実践報告は数多くあるが、反面、PRに不安感を持つ学習者がいるという指摘もある。このことから、PRに慣れていない学習者を対象とする場合には、何らかの措置を講じる必要があると考える。このため、筆者らは、PRに対する学習者の不安を軽減するため、教師フィードバック（以下「TF」）とPRを組み合わせた授業を設計することにした。また、PRの際に学習者がコメントし合う項目の一つに「わかりにくいところを言う」（池田 2007：p.96）がある。しかし、わかりにくい部分を指摘するだけでは、読み手が書き手の意図を実際に理解したかどうかを確認することはできないのではないだろうか。そこで、読み手が正しく理解できたかを明らかにできるよう、書き手自身に「内容理解クイズ」を作成させ、読み手にその答えを考えることを課した。本報告では、この「内容理解クイズ」を実施した第11回の授業を中心に述べる。

2. 実践の方法

第11回の授業は、①レポートの書き手が第一稿の「内容理解クイズ」（5問）とその模範解答を書く、②レポートと「内容理解クイズ」のセットを交換し、他の学生のレポートを読み、質問の答えを書いたのち、返却する、③教員の添削済み原稿（マーカーによる誤りの指摘、コメントによる個別の誤りの指摘）と評価表（ループリック、全体に関するコメント）を受け取るという流れで行い、宿題として自己修正した第二稿を課した。

3. 実践後のふりかえり

まず、「内容理解クイズ」の活動は、学生の読み手に対する意識を高め、文章を推敲する際の自己修正も促す可能性があることがわかった。しかし、設問自体を適切に作れなかったり、クイズの結果を自己修正につなげられなかったりした学生もいたため、教師が適宜支援する必要がある。TFも、おもに書き言葉の自己修正を促すことができたといえるが、今後はモデルレポートも提示しながらループリックの各項目を学生に詳しく説明する、誤用に関しては個別コメントを増やす、全体のコメントはより具体的で分かりやすいものにするなどの改善をしていきたい。

◆参考文献◆

池田玲子(2007)「第4章 ピア・レスポンス」『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために—』ひつじ書房